

## 上顎4前歯の陥入を伴った乳歯外傷の 1例

○佐伯 桂、齋藤 孝浩、竹島 勇、  
牧 憲司  
九歯大・小児歯

### 【目的】

小児歯科臨床において、歯の外傷にしばしば遭遇する。なかでも陥入の占める割合は少なくない。乳歯外傷においては、受傷歯自体だけでなく、後継永久歯への影響および咬合育成への影響を考慮した処置が必要となる<sup>1)</sup>。今回我々は、初診時年齢1歳4か月で、上顎4前歯の陥入を伴った乳歯外傷の経過良好な1例を経験したので報告する。

### 【症例】

初診時年齢：1歳4か月 女児

主訴：上の前歯が埋まったので診てほしい

既往歴：特記事項なし

家族歴：特記事項なし

現病歴：初診日前日、自宅にて椅子から転落し、パネルヒーターで顔を強打した。口腔内から著しい出血が認められたため、近医を受診し上顎前歯部の陥入を指摘された。その後、歯科医の指示により総合病院を受診、全身状態に問題がなかったため、翌日当科を受診した。

現症

口腔内所見：上顎4前歯の陥入が認められた。上顎左側乳側切歯は口蓋側に転位していた。エックス線所見：陥入が見られた上顎4前歯の後継永久歯胚に影響は認められなかった。

治療経過：

初診日（受傷より1日後）：メリアクトMS小児用細粒 0.8g 分3 3日分を処方し、陥入した乳歯の歯冠周囲組織を清潔に保つよう、保護者

に指導した。

6日後：歯肉における創傷の治癒が認められた。

13日後：再萌出が開始した。

45日後：上顎右側乳側切歯に捻転がみられた。

106日後：保護者に上顎左側乳側切歯を唇側に向かって指で押すよう指示した。

176日後：上顎左側乳側切歯の唇側移動が認められた。

491日後：陥入した4前歯すべてが咬合位まで再萌出した。

初診日より491日後まで、陥入したすべての歯において、歯冠部の変色、膿瘍、瘻孔、エックス線写真における根尖部の透過像、自発痛、打診痛は認められなかった。

### 【考察】

乳歯外傷において、受傷時の外力により乳歯の歯根が後継永久歯胚に及ぼす影響は、歯胚形成の早い時期ほど大きく<sup>2)</sup>、特に3歳以下の外傷受傷歯においては、後継永久歯のエナメル質減形成、歯根彎曲、歯根形成の停止、萌出障害などを発現する可能性が高くなると考えられる。乳歯陥入に対しては、経過観察、整復・固定、抜歯の3方針があげられる。本症例では、再萌出を期待して経過観察を行い、良好な結果を得ることができたが、さらに受傷歯の後継永久歯が萌出するまで長期にわたる経過観察が必要であるといえる。

### 【文献】

- 1) 西田郁子：小児期の歯の外傷への対応，九州歯会誌 63(4)：204-210, 2009.
- 2) 井上美津子：乳歯の外傷性脱臼への対応，昭歯誌, 27:189-194, 2007.